

1. Course Description

柔道整復領域における手技療法、運動療法、物理療法について学修します。
これらの治療法は柔道整復学では「後療法」といわれる領域ですが、単に骨折や脱臼に対して徒手整復を施した「後の療法」としてだけではなく、リハビリテーションの理念を踏まえて治療方法の基礎を学習します。
それぞれの治療法が原理・原則に則って行われているかを理解し、損傷に応じた治療法の選択ができるように講義を進めます。
また、国家試験には当該分野からも多く出題されるので、国家試験も見据えて授業を行います。
毎回、先週学んだ範囲の小テストを行い、当該範囲の理解を深め、問題の解説時にはグループディスカッションも行います。
この授業ではDP2に関する知識を修得します。
本科目は、実務経験のある教員による授業です。担当教員は医療機関（整形外科・リハビリテーション科）で従事しており、授業では、臨床例、課題などを題材とした講義、実習を行います。

2. Course Objectives

本講義は柔道整復学における運動器外傷の保存的治療（手技療法、運動療法、物理療法）に関する基本を理論的に習得することを目指します。
また、国家試験を見据え、当該範囲の理解を深めます。

3. Grading Policy

小テストを20%、期末筆記試験を80%として評価を行い、全体の60%以上を取得した者を合格とします。
2/3以上の出席がない学生の評価は行いません。
全体に対するフィードバックとして、第15回授業でまとめと振り返りを行います。

4. Textbook and Reference

Textbook

全国柔道整復学校協会 監修 リハビリテーション医学 改訂第4版 南江堂
全国柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・理論編 改訂第6版 南江堂

5. Requirements(Assignments)

予習としてLMSで指定された課題についてまとめてから授業に臨んで下さい。
教科書の指定の部を読み(授業内容の項目およびLMS)、全体の概要をとらえておき、難読と思われる用語については事前に読めるよう調べて下さい。
復習としてLMSで指定された項目についてまとめ、さらに確認問題を解いて下さい。
およそ予習に1時間、課題と問題解答の復習に2時間を見込んでいます。

6. Note

- ① 座席は教員が指定します。
- ② 7.授業内容に沿って授業を進めますが、状況により調整を行う場合があります。

7. Schedule

- [1] オリエンテーション
- [2] 柔道整復領域での後療法とリハビリテーション
- [3] 物理療法の基礎知識
- [4] 温熱療法
- [5] 寒冷療法と温冷交代浴
- [6] 光線療法(赤外線、紫外線、低出力レーザー)
- [7] 電気療法(電気刺激療法、超音波療法、電磁波を用いた治療法)
- [8] 牽引療法(頸椎、腰椎)、その他の物理療法
- [9] 運動療法の基礎
- [10] 関節可動域運動
- [11] 筋力増強運動
- [12] 介護予防、生活のための運動療法
- [13] 全身性の運動療法
- [14] 手技療法
- [15] 授業のまとめ